

FY2020 Operational Plan

The Japan Foundation for the United Nations University

【基本方針】【Basic Guidelines】

国際連合大学（以下「国連大学」又は「UNU」）は、国連総会によって「研究、大学院レベルの研修および知識の普及に携わる、学者・研究者の国際的共同体」として 1975 年に設立された。国連大学憲章では「人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究」をその仕事とされている。それゆえに国連大学は、国連及び関係機関に対し、革新的な政策の選択肢を支える客観的で偏りのないエビデンス（学術的根拠）に基づく「中立的なナレッジ・ブローカー（知識の仲介者）」としての役割を果たしている。

このことから、国連大学の実施するプログラムは、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」と密接に連携し、17 の持続可能な開発目標（SDGs）のすべての範囲と一致し、それらを網羅している。国連大学は、世界 5 大陸に広がる十数カ所の研究所・プログラムに、600 名以上の研究者とサポートスタッフを擁し、学術的な取り組みに基づく解決策を見出し、国連システムと国連加盟国が SDGs に掲げられているターゲットを実現するための実際的な政策を提言している。

また、国連大学は独自の教育コースやプログラムを幅広く提供している。分野横断的な問題に力を入れ、今後発生する問題や課題に効果的に対処するために必要な知識や技術を未来のリーダーが身に付けるサポートをし、大学院学位（修士および博士）を授与するコース、専門分野における科目等履修プログラムやコース、ワークショップを実施し、さらに若手研究者が国連大学の政策専門家と共に働きながら学べる機会も提供している。

国連大学の大学院学位プログラムは、開発途上国の若手研究者および学者の能力向上、ならびに地域の大学および研究機関とのパートナーシップ強化を目的とし、現在、国連大学物質フラックス・資源統合管理研究所（UNU-FLORES、ドイツ・ドレスデン）、国連大学マーストリヒト技術革新・経済社会研究所（UNU-MERIT、オランダ・マーストリヒト）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS、日本・東京）、国連大学環境・人間の安全保障研究所（UNU-EHS、ドイツ・ボン）の 4 研究所に設置されている。

UNU-IAS の大学院プログラムは、2019 年 7 月までに、博士号取得者を 10 名、修士号取得者を 72 名輩出した。また 2013 年より開始された東京大学大学院新領域創成科学研究科とのジョイント・ディプロマプログラムにおいては、2019 年 7 月までに 30 名の学生にジョイント・ディプロマが授与された。入学応募状況も定着し 2019 年には修士課程に 201 名の応募があり 10 名を入学させ、博士課程には 321 名の応募があり 3 名を入学させた。

本法人は、国連大学憲章の精神を踏まえて国連大学の活動を支援することを目的としており、UNU-IAS が日本・東京にあることから、従前より UNU-IAS の教育・研究活動を支援してきたが、2010 年の同大学院プログラムの創設時より、わが国の経済界及び有志の協力を得て、UNU-IAS 大学院学生を支援するための奨学金をスタートさせた。同大学院の卒業生数はまだ少人数ではあるが、彼らの多くは国際機関の研究プロジェクトや開発途上国の政府活動に参画しており、同大学院の人材育成目標にかなった活動を見せ始めている。

そこで、本法人の 2020 年度の事業活動は、国連大学の活動に対する我が国国民の関心を一層高め、東京にある UNU-IAS 大学院学生への奨学金支援を継続するとともに UNU-IAS の研究・研修の諸活動を支援し、本法人の公益事業のさらなる活性化を図ることを基本方針とする。

The United Nations University (UNU) was established in 1975 by the United Nations (UN) General Assembly as “an international community of scholars, engaged in research, postgraduate training and dissemination of knowledge.” The UNU Charter mandates the University to devote its work to “research into the pressing global problems of human survival, development and welfare”. Therefore, UNU fulfil its role as a “neutral knowledge broker” that can provide an objective, impartial evidence base to support innovative policy options for the UN and related organizations.

For this reason, the UNU programmes align closely with the 2030 Agenda for Sustainable Development, adopted by the United Nations in 2015, and generally encompass the full range of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs). UNU has more than 600 researchers and support personnel, working in more than a dozen institutes and programmes on five continents. They are developing solutions based on academic efforts, and advocating realistic policies that will enable the UN system and UN Member States to reach the targets encapsulated in the SDGs.

UNU also offers a range of unique educational courses and programmes. These focus on cross-cutting issues and help equip the leaders of tomorrow with the knowledge and techniques that they will need to effectively address emerging problems and challenges. UNU awards postgraduate (master’s and doctoral) degrees; organises specialized non-degree programmes, courses, and workshops; and provides opportunities through which young researchers can work alongside, and learn from, policy experts.

The UNU’s postgraduate degree programmes aim to enhance the capacity of young researchers and academics from developing countries, as well as strengthen partnerships with local universities and research institutions. Today, the programmes are established at the following four research institutions: The UNU Institute for Integrated Management of Material Fluxes and of Resources (UNU-FLORES), Dresden, Germany; The UNU Maastricht Economic and Social Research Institute on Innovation and Technology (UNU-MERIT), Maastricht, Netherlands; The UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS), Tokyo, Japan; and The UNU Institute for Environment and Human Security (UNU-EHS), Bonn, Germany.

By July 2019, the UNU-IAS postgraduate programmes had awarded doctoral degrees to 10 students and master’s degrees to 72 students. In addition, a joint diploma had been awarded to 30 students by July 2019 in the joint diploma programme, launched in 2013 in cooperation with the Graduate School of Frontier Sciences, the University of Tokyo. Also, the the University’s flow of applications and admissions is now stable. In 2019, there were 201 applications for the master's programme and 10 students were admitted, and 321 applications for the doctoral programme and 3 students were admitted.

The purpose of The Japan Foundation for the United Nations University is to support the activities of UNU in light of the spirit of the UNU Charter. Since UNU-IAS is located in Tokyo, Japan, we have been supporting its educational and research activities. When the UNU-IAS postgraduate programmes were created in 2010, we launched a scholarship programme to support students in the programme with the cooperation of the Japanese business community and volunteers. Although only a small number of students have graduated from the UNU-IAS postgraduate programme so far, many of them are beginning to demonstrate the kinds of activities that meet the programme's human resource development goals, as they are participating in research projects of international organizations and government activities in developing countries.

Therefore, the basic policies for our activities for FY2020 will be to further raise Japanese people's interest in the UNU activities, continue to provide scholarship support to students in the UNU-IAS postgraduate programmes in Tokyo, support research and training activities of UNU-IAS, and further revitalize our public benefit services.

【事業計画】【Operational Plan】

I. 国連大学の活動への理解と支援を高めるための広報・キャンペーン

[Outreach Campaign on UNU's Activities]

広く国民に、国連大学の実施する人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究及びそれにかかる教育・研修状況について周知させるとともに、それらの活動への理解と支援を高めるために広報・キャンペーンを行う。

特に、国連大学大学院の大学院生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、強力に広報活動を展開する。

1. 広報資料の作成 [Promotional Materials]

(1) ニュースレター（継続事業） [Newsletters] (On-going Mission)

国連大学の研究者や短期コース受講生、大学院生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らしてきた。特に大学院についてはカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなども掲載してきたが、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えることを目指す。

(2) 各種パンフレット（継続事業） [Brochures] (On-going Mission)

本法人の活動概要や国連大学の活動概要を分かりやすく解説したパンフレット等の充実を図る。

2. インターネットによるキャンペーン [Campaigns through Internet]

(1) ウェブサイトの拡充（継続事業） [Updating of Website] (On-going Mission)

国連大学 IT 担当部署（C3: Campus Computing Center）の協力を得てリニューアルした本法人のウェブサイトを活用し、より充実したわかりやすい情報発信を展開する。ウェブサイトによる広報に注力するとともに、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブのさらなる活用を図る。また、UNU 広報室および UNU-IAS と連携を強化し、国連大学の活動内容をより広範に紹介し、イベント情報の積極的な告知や記事の紹介を積極的に行うことを目指す。さらに、本法人独自のコンテンツの充実も試みる。

(2) メールマガジン（継続事業） [E-mail magazine] (On-going Mission)

賛助会員、国連大学や国連大学協力会の情報を直接的に希望する人々に、国連大学および国連大学協力会の様々なイベント案内を中心とした広報を展開する。

3. レクチャーシリーズの刊行（継続事業）

[Publication of jfUNU Lecture Series] (On-going Mission)

国連大学が取り組む地球規模課題について一般国民にわかりやすく紹介するため、国連大学と本法人が共催で実施したシンポジウムやセミナーの結果を「レクチャーシリーズ」として発刊する。2018年までに「国際社会における法の支配と市民生活」、「平和と開発のための教育」、「資源としての生物多様性」、「グローバル化した保健と医療」、「サステイナビリティと平和」、「持続可能性とリスクマネジメント」、「震災復興と生態適応」、「人間の安全保障」、「環境と平和」、「持続可能な地球社会をめざして：わたしのSDGsへの取り組み」と、10巻を刊行した。2020年度も引続き資料の刊行を計画する。

4. 若年層への広報活動（継続事業） [Outreach to Young people] (On-going Mission)

近年、中学生・高等学校生・大学生の間で地球規模課題への関心が高まってきた機運をとらえ、これらの若年層の人々の国連大学見学会を積極的に支援し、若い人々の国連大学及び国際問題への理解と関心を高めるための広報活動を重視する。

5. ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

[Outreach to the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)

地域の各ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努め、国連大学の活動を幅広く広報する。

II. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等 [Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions for the Global Issues]

国連大学の活動について人々の理解と支援を高めるため、国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題の解決のための講演会やシンポジウム・セミナーなどを継続的に開催してきたが、2020年度においても、これを継続する。特に若年層の育成に資するための講演会やセミナー、シンポジウムを行う。

1. セミナー・シンポジウム(継続事業) [Seminars and Symposium] (On-going Mission)

地球規模課題への取り組みについて、講演者相互の意見交換によるパネルディスカッションや参加者との討議が組み込まれたシンポジウムを継続的に実施してきた。2020年度においては、国連大学の実施する短期研修のうち最も長く実績のある国連大学のグローバル・セミナーについて、共催にて実施する。

2. 講演会等 [Lectures, etc.]

説話者のレクチャーを中心とした知識の普及を図るもので、主として、幅広い国民層を対象に、緊急の地球課題について国連大学の修了生や大学院生を招き、国連の現場での経験や研究活動に基づく講演会等を実施する。

(1) UNU Alumni Café の開催（継続事業） [UNU Alumni Café] (On-going Mission)

2017年より UNU の人材育成コースの修了生を招き、今どのような挑戦をしているかをもとに参加者と意見交換をし、国連及び世界が今抱えている地球規模の課題への人々の理解を深める。本法人が修了生たちの同窓会事務運営を引き受けていることもあり、国連大学修了生の活躍を広く知ってもらおうとともに、国連大学への関心を高める機会とする。

(2) SDGs×Leaders Café@UNU（継続事業） [SDGs×Leaders Café @UNU]

(On-going Mission)

また、本法人賛助会員等を講師に招き、SDGs に焦点を当てた講演会も実施する。

III. 国連大学への助成活動 [Grants for the United Nations University]

本法人の主目的が国連大学が行う諸活動について必要な援助・協力を行うことであることから、国連大学への助成活動は最も基本的な活動である。国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行う。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行うこととする。

1. 教育活動への助成 [Grants for UNU Capacity Development Programmes]

国連大学の教育活動は地球規模の課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若き人材の育成を目的としている。短期研修活動と大学院教育がある。

(1) 国連大学大学院「サステナビリティ学研究科」の学生奨学金助成（継続事業）

[Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

国連大学の実施する大学院プログラムのうち、日本・東京にあるサステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）の実施する大学院プログラム（サステナビリティ学修士課程及びサステナビリティ学博士課程）の大学院学生に対し、日本に滞在しながら学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的として、同大学院プログラム創設時より継続的に助成している。2020年度も引き続き助成する。助成の内容は、学生の生活費を中心とした助成である。特に開発途上国からの学生への支援を重視する。

(2) UNU-IAS の実施する短期研修への助成（継続事業）

[Grants for Short-term Seminar by UNU-IAS](On-going Mission)

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）が行っている短期研修に助成する。中でも、**国連大学グローバル・セミナー**[UNU Global Seminar in Japan] については、研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業である。4日間の宿泊研修であるが、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より継続的に助成してきた。2020年度も継続して助成する。

(3) その他の教育事業への助成(継続事業)

[Grants for the Other Capacity Development Programmes](Ongoing Mission)

その他、国連大学との協議により必要とされる教育事業に助成する。

2. 国連大学の教育研究環境整備のための助成

[Grants for Maintenance of UNU Educational and Research Environment]

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球的な課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成する。

(1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費（継続事業）

[Maintenance of UNU Educational and Research Facilities] (On-Going Mission)

(2) 国連大学図書館の蔵書購入費（継続事業）

[Purchasing Books for UNU Library] (On-Going Mission)

3. 研究活動への助成（継続事業）

[Grants for UNU Research Projects](On-going Mission)

国連大学の研究成果は国連機関や世界の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への助成を行うものである。日本国内に設置されている研究所の行う研究活動を重視し、必要な研究活動に対し必要に応じて助成する。

4. その他の国連大学事業への助成(継続事業)

[Grants for the Other UNU Projects](On-Going Mission)

その他、国連大学との協議により新たに必要とされる事業への助成を行う。

IV. 地球課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]

地球規模課題の解決のための研究や社会の取り組みの実情について、必要に応じて調査・資料収集等を行う。調査を実施する場合は、具体的テーマ・調査方法等は、専門家等を交えたプロジェクトチームによって検討する。

V. 国際相互理解の促進等に関する事業

[Promotion of International and Mutual Understanding]

地球規模の課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠であり、本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行う。

1. 国際情報交流事業（継続事業）

[Global Information Exchange] (On-going Mission)

国連大学の研修事業は 30 有余年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際 NGO・大学での研究活動など、緊急で地球規模課題の解決を必要とする現場で活動している。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を欲している。本法人では、1999 年度以来、これらの世界各国で活躍する修了生たちと賛助会員、日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供している。

2. 日本文化体験事業（継続事業）

[Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

国連大学本部において開催される各種研修会や大学院には、世界各国から学生が参集する。これらの学生たちに、研修・教育のための在日期间中に日本文化や日本の社会についての理解を深め、国際相互理解の促進に資するための事業である。

(1) 歌舞伎鑑賞など日本文化に直接に接する機会を提供する。

(2) 日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直接に接する機会を提供する。

VI. 寄付金募金活動 [Fundraising Activities]

国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関である。しかしながら、国連大学の運営予算は、通常の国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。これらのことに鑑み、本法人は、創設当初より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を得るための寄付金募金活動を実施してきた。国連大学への支援を十全に行うために、募金活動を積極的に行う。

1. 国連大学大学院「サステイナビリティ学研究所」奨学支援募金活動（継続事業）

[Fundraising Activities for the Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes]

(On-going Mission)

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は 2014 年に従前の国連大学サステイナビリティと平和研究所（在 東京）と高等研究所（在 横浜）が合併してできた研究所であるが、その際、両者が持っていた大学院プログラムをも統合して「UNU-IAS 大学院プロ

グラム「サステナビリティ学研究科」としたものである。この大学院プログラムは2010年に創設された。本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、2010年秋に、「国連大学大学院サステナビリティ学研究科奨学助成賛助会員（「jfScholarship for UNU 賛助会員」）」をスタートさせた。この大学院では、修士課程（MSc. サステナビリティ学）及び博士課程（Ph.D. サステナビリティ学）共に、創設以来応募者数も増加しており、奨学金を必要とする学生の需要がますます高まることが予想される。学生への奨学助成は、安定的、継続的であることが肝要であるので、2020年度には、賛助会員の拡充を図り、引き続き継続的な支援を行う。賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民からも幅広く参加を呼びかける。

2. 一般寄付金（継続事業） [General Donation] (On-going Mission)

国連大学の実施する教育研究プロジェクトへの助成及び本法人の行う広報・普及活動等への支援を目的に、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。なお、この一般寄付金においては、国連大学のサステナビリティ高等研究所の特定プロジェクトほか、寄付者の意思によって任意の事項を指定して寄付することができるものである。企業団体等をはじめ一般国民にも幅広く協力を呼びかける。また、遺贈や古本募金(チャリボン)、クラウドファンディングといった形態による募金活動にも引続き注力する。

3. 一般賛助会費（継続事業） [Donation from Supporting Members] (On-going Mission)

この一般賛助会員制度による寄付金募金は、従来から実施しているものであるが、本法人の行う活動及び国連大学の教育研究活動全般を継続的・安定的に支援することを目的としている。賛助会員の募集にあたっては、企業団体等をはじめ一般国民からも幅広く参加を呼びかける。

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

本法人は、2020年度において、公益財団法人への移行後11年目を迎える。この10年において本法人の諸活動は、公益目的事業・法人管理運営事業に区分した事業展開が徹底し、公益法人活動としては円滑な発展を見ている。

管理運営については、理事会、評議員会、監事会議、助成諮問員会等の開催に加え、執行理事の権限等の役割分担を明確にし、円滑に推移しているところである。財務運営については、2008年に「資産運用規程」を制定するとともに、同規程に基づき専門家を含む委員による「資産運用委員会」における議論に基づいて運用してきたところである。2020年度においても、公益法人としての社会的責任を果たしていく。

その際、次の点について、前年度に引き続き特に意を用いる。

- (1) 公益法人における、区分会計処理の徹底
- (2) 公益法人における、公益目的保有財産管理の適正化
- (3) 基本財産及び特定基金等の資産運営の適正化

以上